

金沢区地区別データ集

データde富岡第二

DATA de KANAZAWA

目次

1. 地区の概況———1
2. 町丁別人口世帯の動向———2
3. 地域の施設等の分布状況———3
4. 年齢別人口と人口移動———4
5. 世帯の状況と居住歴———6
6. 地区の特徴と動向———7



金沢区幸せお届け大使
ぼたんちゃん

令和7年1月発行

金沢区地域振興課地域力推進担当

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成。

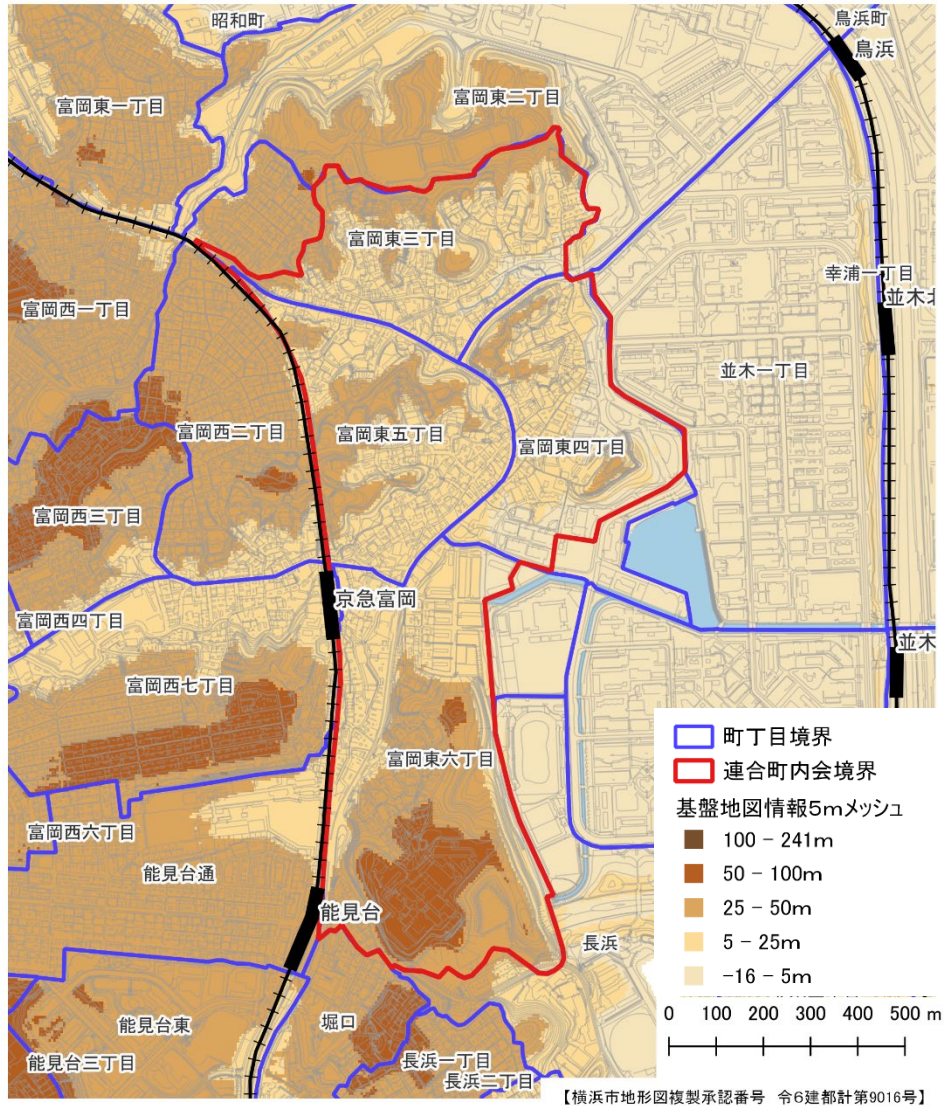


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

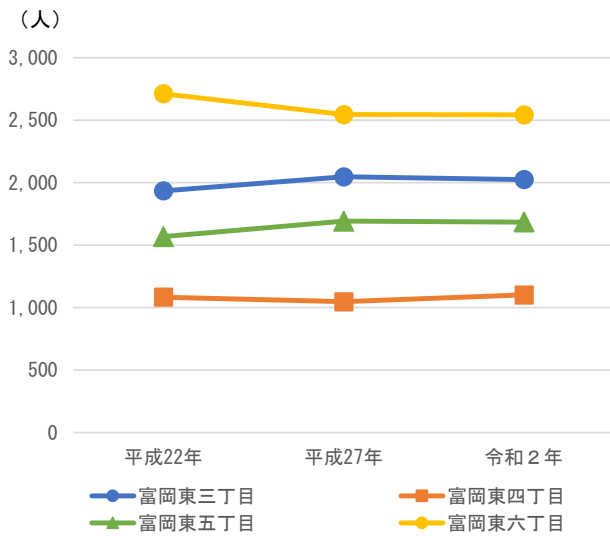
	平成22年	平成27年	令和2年	平成22～27年 増減数	平成27～令和2年 増減数	平成27年 比率	令和2年 比率	令和2年 金沢区比率	令和2年 横浜市比率
人口 (人)	7,300	7,334	7,356	34	22	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳 (人)	796	838	838	42	0	11.4	11.4	10.8	11.7
(内0～4歳) (人)	267	304	276	37	▲28	4.1	3.8	3.7	4.4
15～64歳人口 (人)	4,813	4,618	4,358	▲195	▲260	63.0	59.2	57.4	61.3
(内20～24歳) (人)	388	322	375	▲66	53	4.4	5.1	5.5	5.3
(内25～39歳) (人)	1,548	1,459	1,136	▲409	▲323	19.9	15.4	13.6	16.5
65歳以上人口 (人)	1,619	1,841	2,015	222	174	25.1	27.4	29.5	24.4
(内65～74歳) (人)	928	1,033	993	105	▲40	14.1	13.5	14.4	11.6
(内75～84歳) (人)	528	599	740	212	141	8.2	10.1	10.5	8.8
(内85歳以上) (人)	163	209	282	119	73	2.8	3.8	4.5	4.0
世帯数 (世帯)	3,288	3,377	3,507	89	130	-	-	-	-
平均世帯規模 (人/世帯)	2.22	2.17	2.10	-	-	-	-	-	-

*国勢調査による(各年10月1日現在)。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 * 「国勢調査」による（各年10月1日現在）。

図2 町丁別人口の動向



富岡第二地区には、令和2年10月1日現在、7,356人が暮らしています。世帯数は3,507世帯、平均世帯規模は2.10人/世帯です。（表1参照）

平成22～令和2年の期間で見ると、人口、世帯数ともに微増しています。

世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成22年の平均世帯規模は2.22人/世帯から令和2年には2.10人/世帯となっています。（表1参照）

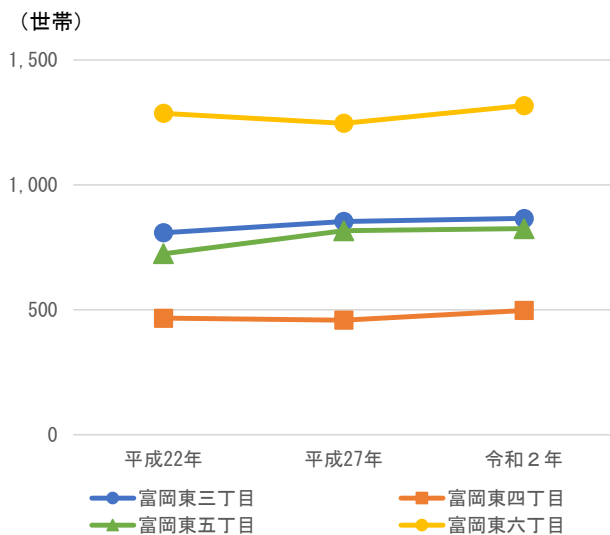
令和2年時点の65歳以上の人口比率（高齢化率）は、27.4%で横浜市全体（24.4%）は上回っていますが、金沢区全体（29.5%）を下回っています。この理由は40歳代の人口が1,066と多いためと考えられます。（図6参照）

高齢化率は5年間で約2.3ポイントの上昇*となりました。

0～14歳の人口（年少人口）は平成22年から平成27年に増加しましたが、平成27年から令和2年は横ばい（増減なし）でした。15～64歳の人口（生産年齢人口）は平成22年から平成27年、平成27年から令和2年といずれも減少しています。（表1参照）

*金沢区の高齢化の上昇は2.8ポイント、横浜市の高齢化の上昇は1.1ポイントとなっています。

図3 町丁別世帯数の動向

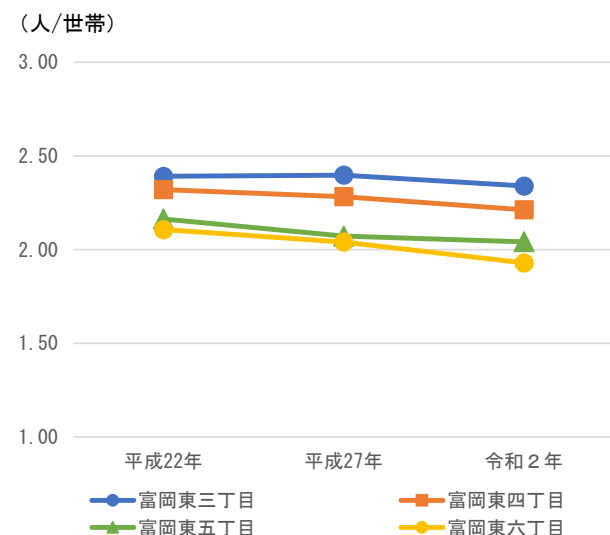


富岡第二地区には4町丁が含まれています。

富岡東三丁目と富岡東五丁目は平成22年から平成27年に人口、世帯数ともに増加しました。4町丁とも、人口、世帯数はおおむね安定しています。（図2,3参照）

富岡東六丁目では、人口は微減傾向ですが世帯数が増加し、世帯規模の減少幅が大きくなっています。（図4参照）

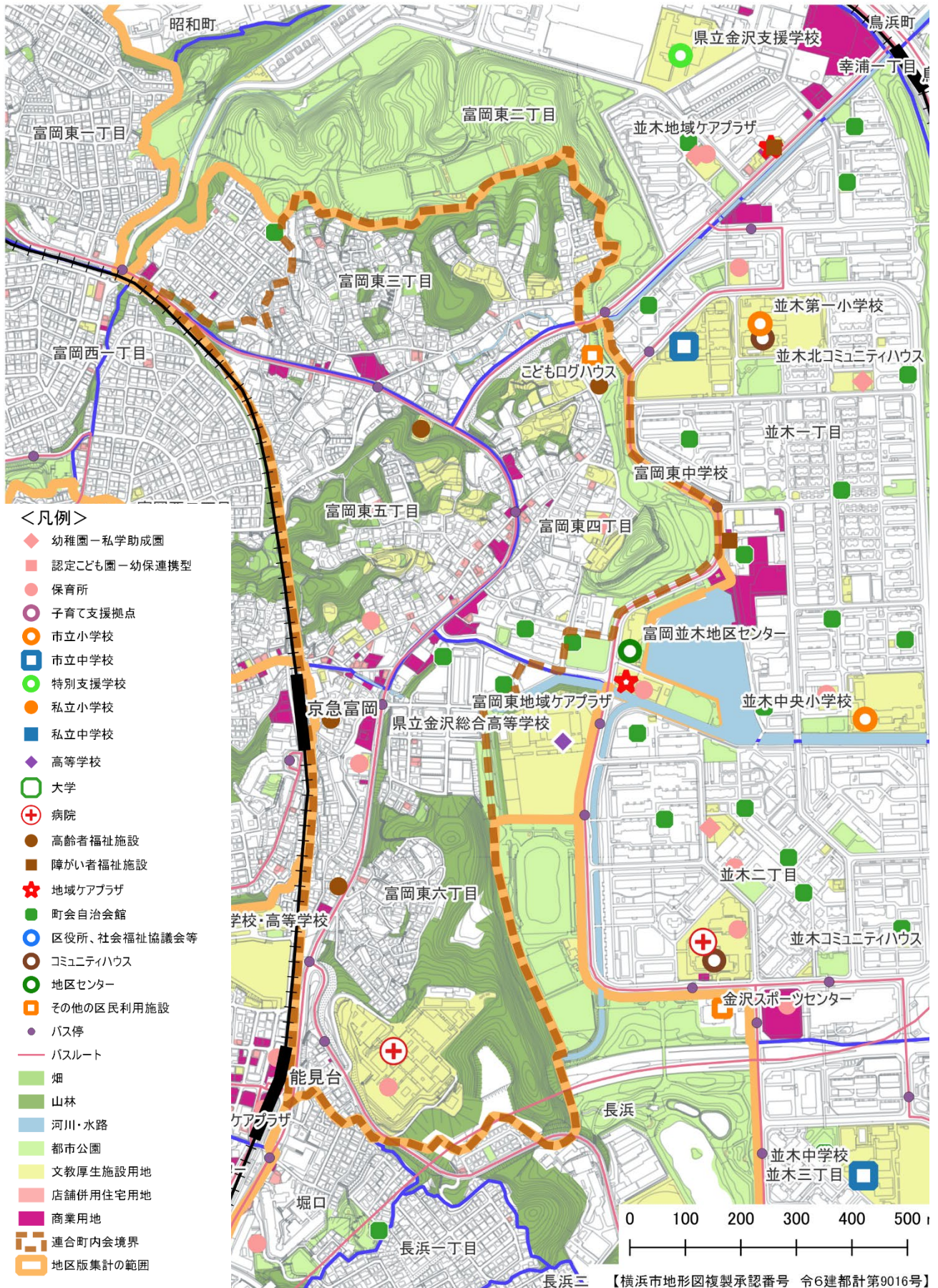
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

*年齢別人口は国勢調査による（各年10月1日現在）。
*移動人口は平成30～令和5年の人口移動集計結果による。

図6 年齢5歳別の人口の変化

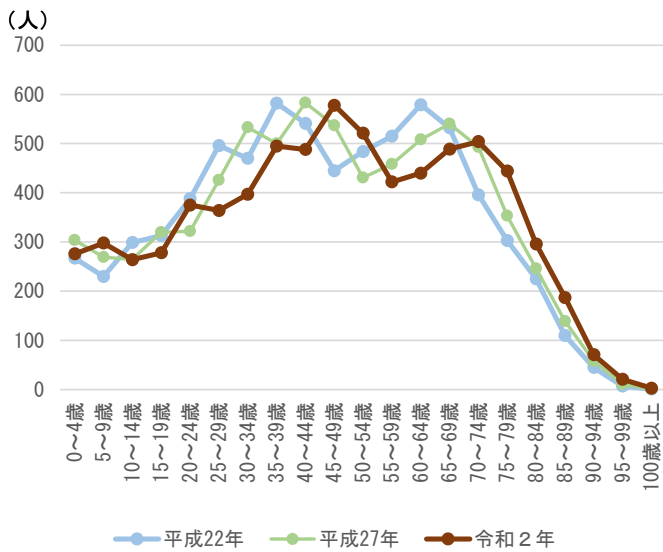


図7 年齢5歳別の人口の推移率

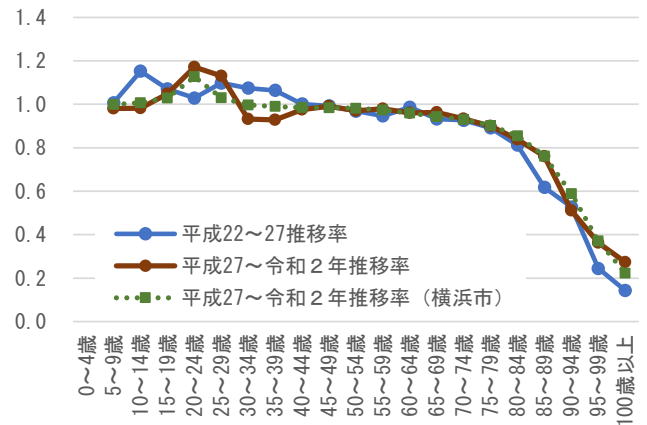
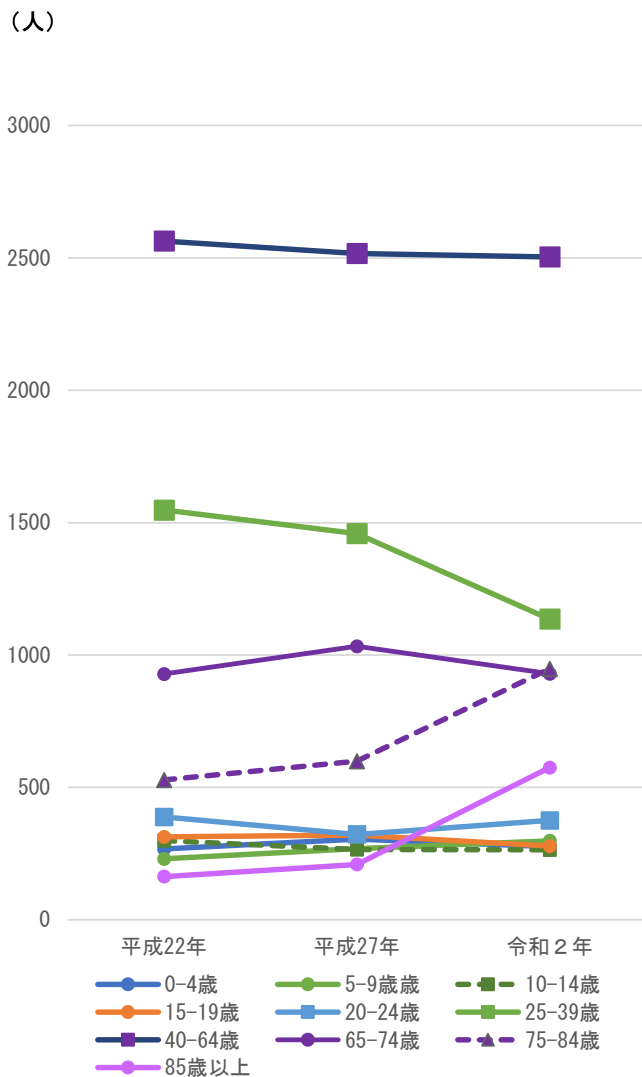


図8 年齢別人口の変化



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合。

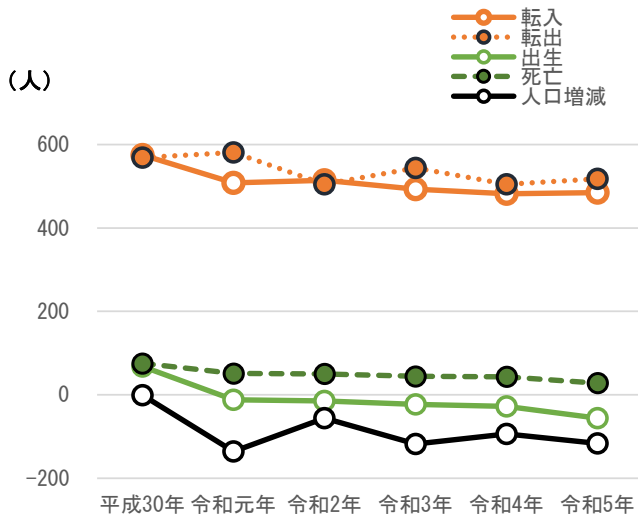
富岡第二地区の年齢別人口は、30～79歳の各年齢の人口が概ね500人前後で安定しグラフ右側に移動しています。(図6参照)

年齢別人口の推移率は、平成27年から令和2年には15～29歳で、いずれも1.0を上回るようになっており、この年齢層が転入増加したことがわかります。

(図7参照)

25～39歳(子育て世代)は減少傾向が見られ、特に平成27年から令和2年にはその傾向が顕著になっています。(図8参照)

図9 人口移動の動向



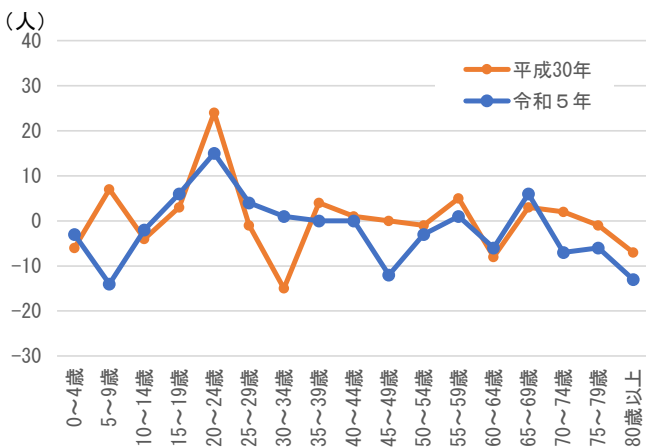
人口移動の動向をみると、社会移動では転入と転出は概ね安定しており、転出と転入の差が小さい状態が続いています。

自然増減では、平成30年は出生と死亡の差はわずかですが、令和元年以降は死亡が出生を60人以上上回っています。

社会増減、自然増減を合わせた人口増減は、令和元年は転出が転入を上回り、人口減が見られましたが、令和2年以降はほぼ横ばいになっています。(図9参照)

平成30年と令和5年の年齢5歳別社会移動人口の動向をみると、平成30年は20～24歳の増加が多く、30～34歳の減少が見られます。令和5年にも20～24歳の増加が多く、5～9歳、45～49歳に減少が多くなっています。(図10参照)

図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による(各年10月1日現在)。

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

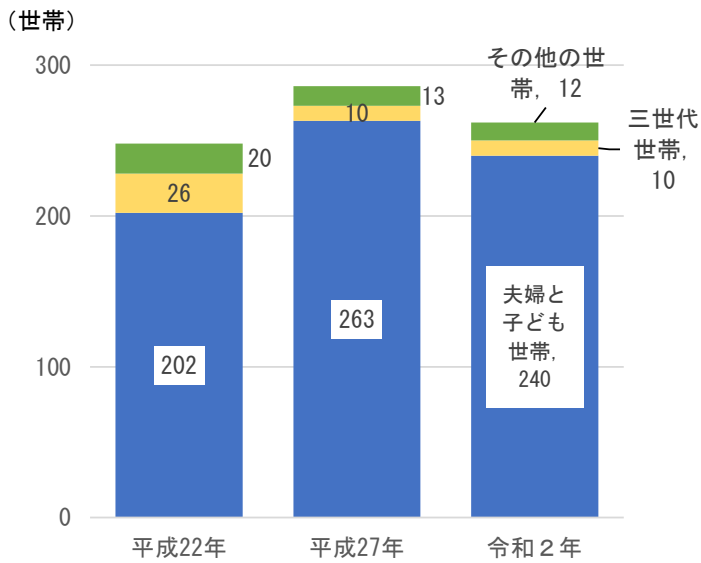


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

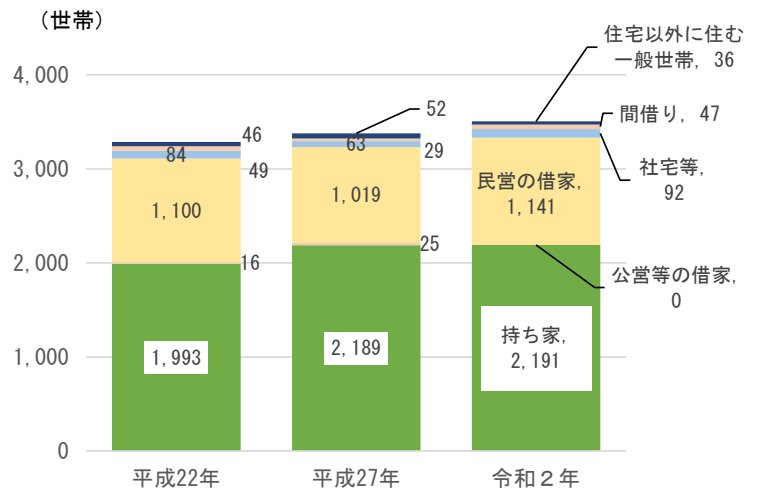


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

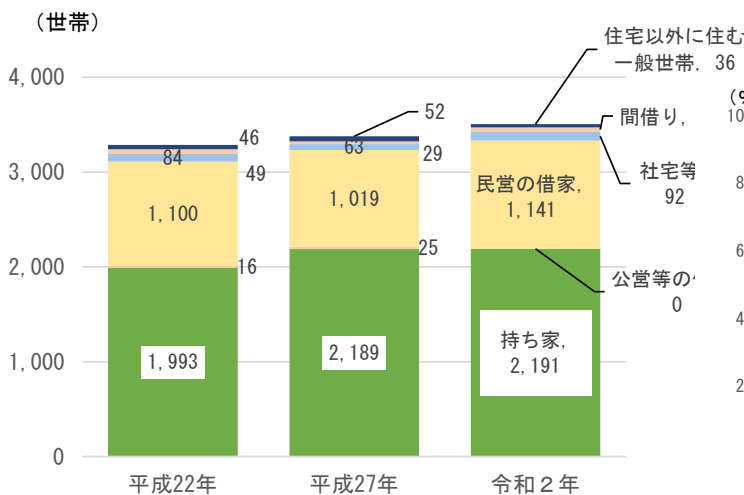


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合 (R2)

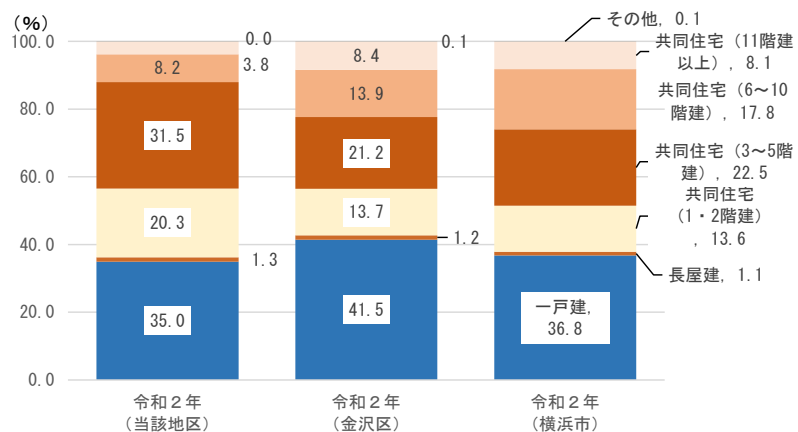


図 15 規模別世帯の動向

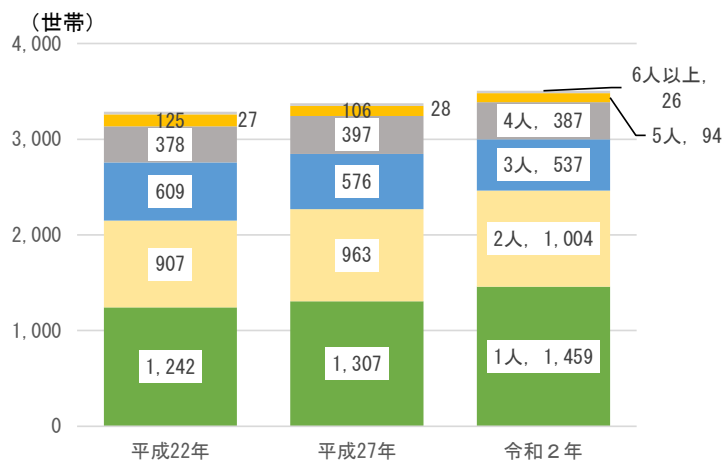
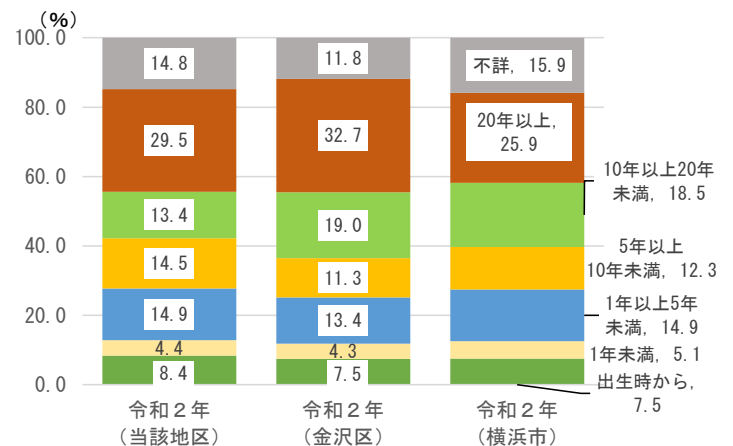


図 16 居住歴別人口の割合 (R2)



6. 地区の特徴と動向

富岡第二地区は、京急線の東側にそって台地の上や谷戸に形成された住宅地です。

地区の西側中央に京急富岡駅があります。

平成22年から平成27年は、6歳未満の子どものいる世帯はやや増加しましたが、令和2年には微減傾向に転じました。令和2年の6歳未満の子どものいる世帯(262世帯)の91.6%が核家族になっている事がわかります。(図11参照)

65歳以上の高齢者のいる世帯は増加傾向が見られます。令和2年の65歳以上の高齢者のいる世帯1,394世帯のうち、31.6%が夫婦のみの世帯、33.1%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の64.7%を占めています。(図12参照)

住宅の所有関係別では、令和2年は持家に住んでいる世帯が2,191世帯で最も多く、増加傾向にあります。民間の借家に住む世帯は1,141世帯あります。社宅(給与住宅)に住む世帯が92世帯あります。(図13参照)

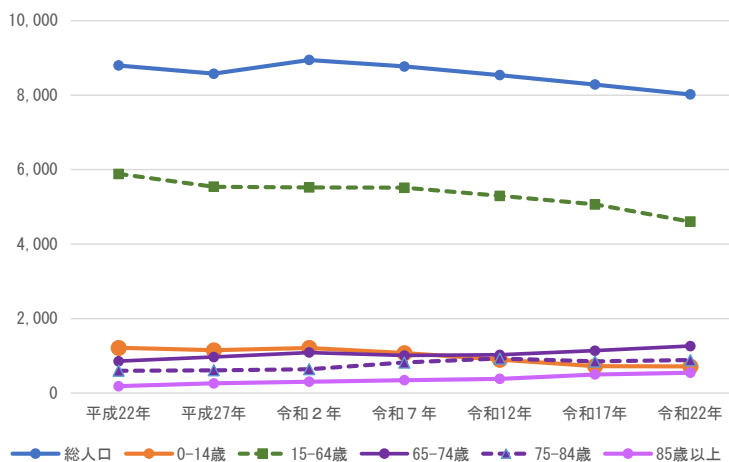
令和2年の住宅の建て方別の世帯の割合をみると、35.0%の世帯が戸建て住宅に住んでいます。金沢区全体の戸建て住宅の割合(41.5%)と比べると6.5ポイント以上低く、共同住宅が6割以上となっています。(図14参照)

富岡第二地区は世帯数が増加傾向にありますが、特に「1人」と「2人」の世帯が増えていることがわかります。(図15参照)

人口全体の動向と推計をみると、平成27年から令和2年は人口が微増しましたが、令和7年以降は緩やかに減少するものと推計されています。(図17参照)

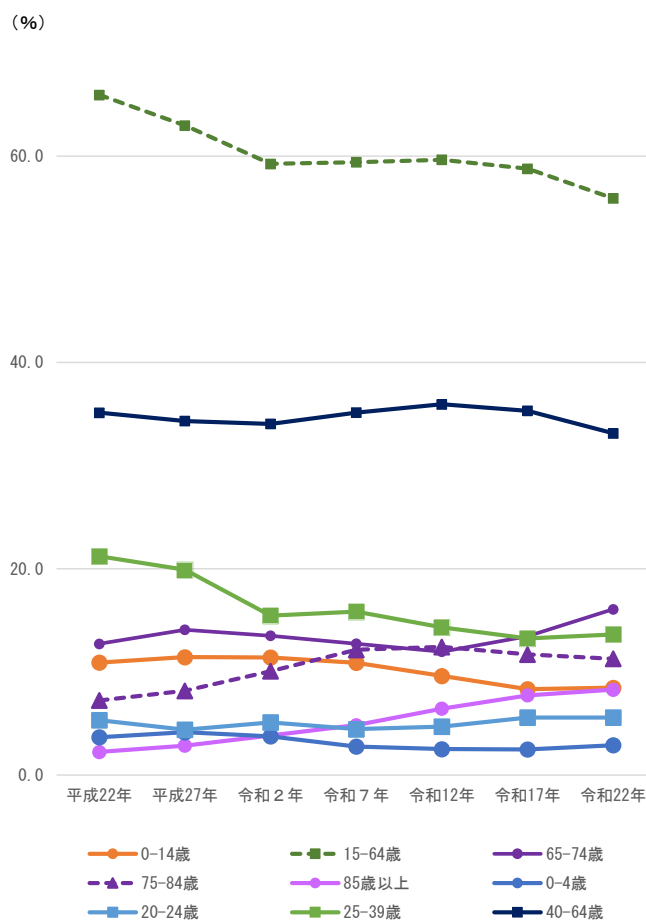
今後は高齢者人口、特に65~74歳、85歳以上の人口の割合の増加が顕著で、生産年齢人口は減少し割合も60%を下回ると推計されます。(図17,18参照)

図17 人口の動向と推計 (人)



※平成22年～令和2年は国勢調査の実績値。令和7年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値(国勢調査を用いたコーホート変化率法)。

図18 人口の動向と推計 年齢別比率 (%)



※平成22年～令和2年は国勢調査の実績値。令和7年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値(国勢調査を用いたコーホート変化率法)。